

はじめに

橋爪大三郎

習近平^{*1}政権の、正体は何か。

世界をこれから、どうやってひっかき回すのか。習近平政権もやがて退場するとして、その後どんな中国が現れるのか。二一世紀の人類社会にとって、目の離せない大問題だ。

*

中国はとにかく、巨大である。

経済はまもなく、アメリカを追い越す。実質的には、とうに追い越している。人口は、アメリカのおよそ五倍もある。人類の五人に一人が中国人、なのだ。その中国を中国共産党の、党中央が動かしている。中国の指令塔だ。党中央は、小さい。ひと握りのトップリーダーの集ま

*1 習近平 一九五三年生。陝西省^{せんせい}出身。父親は党中央幹部の習仲勳。清華大学卒業。二〇一二年、中国共産党総書記に就任。

りだ。それに比べて、中国は大きい。巨大な図体ずうたいに、小さな頭脳づなうがついている。

党中央が指示する。人びとはその言うことを聞く。党中央は、人びとの言うことを聞かない。党中央が、一方的に、巨大な中国を動かしている。党中央が何を考えているか。——これが、中国のこれからを占う急所である。

*

党中央が何を考えているかで、中国は引きずり回された。反右派闘争*2がそうだった。大躍進*3がそうだった。文化大革命*4もそうだった。人びとは指示されるまま、政治運動に明け暮れ、気がつけば何千万人もが命を落とした。数えきれない人びとが、毛沢東*5の気まぐれな指示によって、人生を狂わされた。

改革開放も、党中央のかけ声で始まった。天安門事件*6の弾圧も、党中央の指示で起こった。江沢民こうたくみん*7も胡錦濤こきんとう*8も、党中央と鄧小平とうしょうへい*9が抜擢ばつてきしてリーダーとなった。習近平は、毛沢東、鄧小平に次ぐ、中国共産党の三代目のドン（大ボス）である。習近平が何をどう指示するかによって、これからの世界は左右されてしまう。

*

習近平の頭の中身はどうなっているか。これを読み解くことが緊急の課題だ。

目次

はじめに

橋爪大三郎

第一章 中国新疆でのウイグル人弾圧

ウイグルの惨状はどう報じられている？

沈黙するイスラーム

西側は中国を批判

ジハードに値するではないか

問題だらけのイスラーム世界

人権とジハードは違う

カリフ制から遠く離れて

パレスチナ問題との違い

初めて足を踏み入れて

中国の分析は必須

第二章 中国共産党のウイグル人大弾圧

これは宗教対立ではない

犠牲になったモンゴル、チベット……

「思想改造」の伝統

なぜ抹殺でなく改造なのか

中国政治の凶暴さ

帝国は多様性を包括する

第三章 中国的ナショナリズムとは何なのか

中国共産党の正体

中国共産党は国家機関でない

文化大革命から改革開放へ

一党支配はまだ必要なのか

一党支配とナショナリズム

中国的ナショナリズムの弱点

伝統と西洋のキメラ

人間はなぜ不平等になりうるか

大英帝国と中華帝国

近代化の蹉跌と中国共産党

第四章 専制君主、習近平

膨らむ中華イデオロギー

習近平の思想の中身とは

一党支配の本質

対抗のための拠点

共産党と人民の矛盾

国外にも響く声

党の優位と心の空白

宗教としてのナシヨナリズム

第五章

中国とどう向き合うか

アメリカの対中戦略

人権問題に非難を集中

米中はどっちもどっちなのか

米バイデン政権は対決を堅持する

在外華人のネットワーク

「二帯一路」は何を指す

上海協力機構の手の内

トルコの微妙な立ち位置

バイデンの、この指とまれ

思惑がばらばらな各国事情

我慢くらべのデカップリング

中国の抱える不安全感

第六章 日本に何ができるのか

二者択一を迫られる日本

定見がないから選択できない

まともな中国研究機関がない

西側自由主義陣営につくべき
ウイグル人弾圧は犯罪である
台湾を守ることで解決の糸口を
歴史の背後をみつめる
「人権」を中国語で理解しにくい
難民政策が外交カードに

おわりに

中田考

内なる中国、内なるアメリカとの葛藤
イスラームを内在化した視点
トランプ主導のイスラエル・アラブ融和構想の最終的破綻
アメリカのダブルスタンダード
東アジア中華文明圏が共有する価値観に訴える対話的アプローチ
追記 タリバン政権復活で顕在化した上海協力機構の影響力
